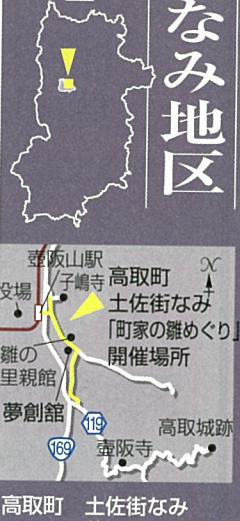


高取町土佐街なみ地区

「高取土佐街なみ」
天の川計画実行委員会



高取町 土佐街なみ
「町家の雛めぐり」
3月1日(土)~31日(日)
10:00~16:00(開催時間は展示場所によって異なる)
所高市郡高取町
土佐街なみ一帯町家
近鉄吉野線 壱坂山駅下車すぐ
※「雛の里親館」には徳島県勝浦町から預かった雛人形約500体が展示される。
問高取町観光案内所
「夢創館」0744-52-1150

お雛さまが運んできた ひな

城下町の出会いと交流



日本屈指の山城として名をはせた高取城。弥生3月、その城跡へと続く土佐街道を歩くと、町家で愛蔵されてきた雛人形が迎えてくれます。

去年始まった「町家の雛めぐり」では、町内42軒が雛人形や自宅を公開。各家伝来の人形を囲み、訪れた人と住民がおしゃべりに花を咲かせました。

幼い頃、戦時中で雛まつりを祝えなかつたという観光客は、町家で話しこむうち「高取で自分の雛まつりがやつとできました」と涙声に。耳を傾けていた住民も、手に手を重ねます。雛めぐりを企画した実行委員会の野村幸治代表は「観光客の一番の望みは地域の人との交流。住民の願いと訪れる人の思いを一致させ

るよう、知恵を出し合っています」と地域活動に邁進しています。

とはいって、課題も浮上。街道沿いには急きよ、トイレが増設されました。その費用は住民が町の特産品などを販売して捻出しました。求めるより、まず地域で実践。そんな高取マインドの定着とともに、空き家だった町家が資料館などの「もてなしの拠点」として、次々に息を吹き返し始めたのです。

来る人と迎える人をつなぐ縁結び。蔵から目覚め出たお雛さまには、そんな新たな役目が与えられました。春の訪れとともに、街道筋では今人も人々が楽しげに故郷を語り、心を通わせ合うのでしょうか。

雛めぐりが終わり、客足が戻る兆しを喜んだ商店店主は「頑張ったら結果が出るから商売は楽しい」と元気な感想を寄せた。

女性ボランティアが餅化手作り。来訪者を迎える3月、ハレの日にも似た心臓がやつてくる。



「奈良・もてなしの心推進県民会議」では、生き生きとした生活や交流を育むまちづくりを実践している地区を、「もてなしのまちづくりモデル地区」として認定。高取町土佐街なみ地区もその一つです。

